

TMU看護研修 台北医学大学 3月3日～3月16日

松原里奈 看護科学専修4年
 安藤有瑠聡 看護科学専修3年
 池本滉 環境生命科学専修2年

渡航先での旅程と活動内容

3月3日より3月16日までの研修期間で、私達は台北医学大学(Taipei Medical University, TMU)で行われた看護研修プログラムに参加しました。活動には「表活動」と「裏活動」がありました。表活動は、主にTMUキャンパス内の講義室で行われました。このプログラムで私達は10の講義を受けました。これらの講義では、台湾の長期ケア、台湾の医療保険制度、ヘルスツーリズム、認知症ケア、Assistive Device、中医(Traditional Chinese Medicine, TCM)、リーダー論について概説的に学びました。講義の内容は多岐にわたっており、二週間の中で台湾の看護や医療のあり方を様々な視点で学べたことは貴重でした。講義以外では、TMUの提携している病院がTMU附設医院、萬芳医院、雙和医院と三つあり、計四日間各病院を見学しました。各病院では、病院の地域での位置付けや特徴を聞き、看護師の方に一日付きシャドーイングする中で実際に看護師がその病院でどのように働いているかを学びました。

一方、公式に組み込まれた講義や見学以外の活動は裏活動として位置づけられていました。裏活動は、TMUの学生が放課後に夜市へ連れていってくれたり、台湾の名所や美味を紹介してくれたりというものでした。これは公式活動外の活動なので、一見プログラムに関係ないように見えますが、そうではありません。TMUの先生方が放課後の裏活動を推奨してくださっており、またそれを支えるバディ制度もありました。参加者(Inbound students)一人にTMUの学生が一名つき、生活面などで面倒をみってくれる制度です。表活動と裏活動を合わせて初めて本研修は成り立つものでした。裸の台湾を知る中で、台湾の看護に対する理解も深まりました。私たちが受け入れてくださったTMUの皆さんに感謝します。(池本)



(Assistive Deviceの講義でのデモ)



(リーダー論の講義後に)



(1日病院見学にて)



(大学正門)



(看護学院/後棟にて)



(中医の講義で舌診を受ける。舌診とは、舌の状態から全身の状態を診断する中医独自の診断方法)



(TMU図書館の中医図書コーナー)

研修の目的

台湾での医療・看護について学ぶことで異なる文化における看護のあり方について考え、その上で日本における看護を再考したいと考え、今回の研修プログラムに参加しました。(松原)

研修を通して学んだこと

病院を見学させていただき、台湾では家族が常に付き添っており、入院中の患者の身の回りの世話をを行うのが一般的だと聞き、驚きました。ケアの中で看護師が行うのは医療的な部分のみで日常的な部分は家族が行うことが多いとのことでした。例えば入院中からストーマのパウチの交換方法を家族に指導し家族が行っているそうです。日本では日常的なケアを含め看護師が行うことが多く、退院して自宅に帰ったときのために家族にケア方法を指導する、という形が一般的です。退院指導という形ではなく、入院中も家族が行えるようにという目的で指導を行うことは、退院後の生活において家族がよりスムーズにケアを行っていただけることにつながるのではと思いました。一方、台湾では家族が常に付き添っているということが常識となっているため、家族の負担が考慮されにくくなっている可能性があるとも考えました。この家族の付き添いの違いについて、日本と台湾の家族の捉え方の違いを感じ、興味深く思いました。

今回の研修では日本の他の大学や香港からも学生が参加しており、貴重な交流の機会となりました。それぞれの大学生活、病院実習の様子、看護観、課題意識や将来のビジョンなど、それぞれの学生の考えを聞くことができました。2週間の中で様々なバックグラウンドを持った学生と関わり、自分の考えを広げることができました。(松原)

反省点

医療や看護についての英語の知識がほとんどなかったため、英語でコミュニケーションを取る能力があれば台湾、香港の学生ともより詳しく医療や看護、文化についても話すことができ学びが深まったのではと思います。(松原)

グローバルな視点とは何か



今回の研修の中では異文化論も取り扱われました。左のグラフは越境者が他国の文化に適応・自国の文化に再適応する反応と時間の関係を示しています。一例ではありますが、グローバルな視点で人間を見る際には心理学的な側面も重要であることがわかりました。(安藤)

将来の進路決定へどう影響したか

一番大きな点は、将来生きる場として日本国外を検討するようになったことです。今回の研修は私にとってほぼ初めての海外経験であり、今まで漠然としていた海外のイメージが像を結んだと共に英語学習へのモチベーションも高まったと感じています。(安藤)

後輩へのアドバイス

まず自分の関心分野に関して、日本での実態を知っておくと望ましいと思います。現地で学ぶことは多いですが、特に記憶に残るのはやはり関心に最も近い部分だと思います。また、特に海外経験の少ない人にとっては現地の空気を感じることも非常に重要です。決して観光旅行ではありませんが、可能な範囲で現地の人々と交流するべきです。(安藤)

研修支援制度に望むこと

本研修のようにある程度プログラムが決まっている場合、以前行った経験がある先輩に話を聞く機会などがあれば良かったと感じました。(安藤)

